

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、_：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	住宅販売会社（経営者）	・展示場来場者の動向が良い。年内限定の住宅ローン減税という特殊要因もあり、8月まではまだまだ受注は期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	・ゴールデンウィークで獲得した新規顧客と既存管理客の受注が同時に動き始める。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・可処分所得が急激に増加することはないが、雰囲気は良くなっているので、やや良くなる。オリンピックも日常生活に影響する時間帯の放映ではないため、それも良い影響を与える。
		商店街（代表者）	・ゴールデンウィークでの販促対策が期待どおりの成果となり、その後も食料品関連を中心に前年実績に底上げがなされている。夏の民間ボーナス支給がやや上向くという予想があり、これに合わせたイベントの展開で売上回復を図
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	・いろいろな商品の販売数量も増えつつあり、新製品やボーナス時期にもさしかかるため、高額商品の販売も見込
		百貨店（経営者）	・3～5月は、気温の差、土日営業日数の暦回りもあり、前年比では厳しかったが、6月以降は、前年よりも新規ショップが増えていることもあり、新規催事とクリアランスでの売上が期待できる。
		百貨店（売場担当）	・セールの前倒し等が出てくるし、ボーナスが出るので売上は伸びる。値段が安いものはもとより、高い商品でも売れ始めている。
		スーパー（経営者）	・低価格競争に一服感が出てきている。また、ここしばらくは新規の競合店出店がない。
		コンビニ（エリア担当）	・昨年6月は、たばこ増税前の駆け込み需要が発生したため、今年は大幅に前年を割ると見られるが、7～8月は逆にタバコ買いためや冷夏の影響等で、前年実績を大幅にクリアできる。
		衣料品専門店（店長）	・昨年は、冷夏で夏物衣料が大苦戦したが、今年はその部分が改善でき、商況は明るくなる。
		衣料品専門店（店長）	・昨年の冷夏に比べ、今年は夏らしくなると、長期予報が出されており、シーズン商品の動きが期待できる。スーツは期待できなくとも関連商品のシャツやタイなどは期待で
		乗用車販売店（経営者）	・各社新型車が出そろうわけではないが、ぼつぼつ出始めたモデルチェンジが需要を刺激し始めている。また自動車リサイクル法への関心や金利上昇に備えた低金利クレジットの利用などから現状維持以上の販売は見込める。
		自動車備品販売店（経営者）	・地域で日本海沿岸道の工事が始まった。多少ではあるがダンプ系の資材運搬が増えると思われるので大型自動車ディーラーは修理受注の仕事が増える。
		一般レストラン（経営者）	・2～3か月先に小さなパーティーの予約等が入っており、これまでよりもやや良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・予約状況は、昨年より多少良好である。特に地元企業や組合関係等の総会のホテル利用も戻りつつある。自動車関係や建設関係、また福祉関係の客が増えてきている。
		観光型旅館（経営者）	・6～7月は例年より予約が早く動いており、堅調である。夏から秋にかけて自然庭園を利用した露天風呂を新設する予定である。
	通信会社（営業担当）	・固定電話から携帯電話への通話が新たな収入として順調に増えてきており、この傾向はしばらく続いていく。	
	変わらない	商店街（代表者）	・新規出店の予定もあるが、退店や閉店もあるので、一進一退が続く状況である。
		百貨店（売場主任）	・今後も全館催事を予定している。必要なもの以外は買わない傾向は続いているが、衝動買いを促し、今後続くような企画とする。
		百貨店（企画担当）	・当店の営業力が回復しておらず、また当地の地盤自体が景気低迷状態が続いている。
百貨店（販促担当）		・7月12日の選挙で法人関連の中元期の売上動向が懸念される。改装前のセールでマイナス部分をどこまで補えるかにかかっている。	

百貨店（経営者）	・客数、客単価の前年比はやや上向きになっているが、売上高絶対額ではまだ前年を割っており、そういう意味ではまだ変わっていない。個人消費は、個人所得が伸びておらず、その他の不安材料も多い。
スーパー（経営者）	・総額表示移行による各数値の一時的なマイナスは、客の購買行動が慣れれば回復する。そういう点では一過性のものであるが、消費に対する基本的な姿勢は変わらない。
スーパー（経営者）	・昨年の冷夏の再来とならなければ良いが、依然として明るい兆しは見えない。オリンピックイヤーであるので、家庭内食の機会が増えることを期待する。
スーパー（総務担当）	・消費税総額表示によって、買いやすくなったという反面、企業としては消費税がそのまま上乗せになっているわけではないため、収益を圧迫している。
スーパー（企画担当）	・販売点数が減少し単価が低下している。客数と併せてすべての要素が下がる傾向である。まずは客数の回復を目指す。急激な変化はない。
乗用車販売店（経営者）	・低価格のコンパクトカー及び新型車に需要が集中しており、ミディアム、ラージクラスの販売の動きは鈍く、市場全体としては低調に推移する。
乗用車販売店（経営者）	・低価格車はそれなりに動いているが、高価格車は動きが悪い。そのため利益目標を達成するには、数量で稼がなければならない。厳しい。
その他専門店〔家電〕（経営者）	・以前であれば、季節ごとの販促策が展開できたが、最近ではボーナスとかオリンピックなどに合わせたチラシを出しても反応が鈍い。
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・アルコールの消費量自体がトータルで頭打ちになっている。また安売りにより、売上額が停滞しており、多く売れてもトータルでは変わらないという状態がしばらく続く。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・全体の景気は上昇傾向になってきているようであるが、石油販売業は他業種が上向いた後によりやく影響が出る業種である。特に軽油に関しては前年割れが続き、輸送、建設土木等の大量消費分野が、新年度予算執行以前であることを差し引いても動き自体が弱い。配達軽油がギリ貧傾向である。また、総額表示により価格上昇の印象が強くてきているようで、余計な出費はさける動きが感じられる。原油の高騰からの石油製品の値上げの動きがあり消費者心理の冷え込みが懸念される。
高級レストラン（支配人）	・宿泊、宴会、レストランでサマープランを打ち出しているが、価格政策上単価アップは難しく前年並みの売上となる。
その他飲食〔そば〕（経営者）	・単価がこれまでに経験したことがないほど低くなっている。常連であるサラリーマン客の厳しさが伝わってくるような状況で、先行きは厳しい。
その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・販売量そのものは前年を上回っているが、グループの他店も含め、2～3か月の期間での改善はない。
観光型旅館（経営者）	・例年7月は来客数が減少する時期であり、好転の兆しはない。ただし、落ち込みは底を打った感じがあるので、前年比で落ち込みながらも横ばいとなる。
都市型ホテル（経営者）	・一般宴会の予約状況は例年並みであるが、明るい材料としては家電業界のセミナーや懇親会の戻りがあり、今後も少しは見込める。しかし、同業他社の進出による婚礼、宿泊の減少、また建設業界の倒産なども見込まれ、トータルでは変わらない。逆に減少の可能性も高い。
通信会社（営業担当）	・2、3か月後はボーナス時期ではあるが、現時点で明るい材料がないためこのまま推移する。またガソリンの高騰が懸念材料であり、心理面で悪い方に振られる。
テーマパーク（職員）	・ゴールデンウィークが終わり夏休みまでは閑散期が続くが、夏休みの予約が昨年同月と比べて300名の減である。テレビCMをまだ入れていないので、今後の伸びが気になる。
遊園地（経営者）	・夏休みにはメリハリを付けたイベントを計画している。昨年の、お盆を中心とした悪天候や、競合するサーカス等がないため、昨年実績を下回ることはない。
やや悪くなる	一般小売店〔医薬品〕（経営者） ・3か月後は、真夏であり、良くなるのが普通である。しかし客の中では特にタクシーの運転手などは悪くなると言っており、例年よりも悪くなるという意見が多い。

		スーパー（経営者）	・ようやく消費税総額表示にも慣れ、来月あたりにまた大型店出店の予定であり、競争が激しさを増すことが懸念される。
		スーパー（経営者）	・オーバーストア状況の中で、競争の激化と新規出店が続く。また、建設業の不況による金の循環の滞りなどが発生し悪くなる。
		スーパー（店長）	・客数は昨年より増えているが、客単価の下落に歯止めがかからず、さらにディスカウント価格によって利益が取れない。客が必要な時に必要なものしか買わないという傾向が顕著である。
		住関連専門店（経営者）	・客の出足が悪く、周辺を見回ってみても、新築住宅が去年より少ない。
		住関連専門店（経営者）	・耐久消費財を扱っているため、目的がない方の購入は望めず、秋先に若干の望みをかけているが、石油価格の値上げが消費にどう影響するか分からない。コスト転嫁が遅れば消費につながるが、現況では期待できない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・6月に原油の大幅値上げが予定されている。数字的に伸びない上に4円前後の値上がりとなるため買い控えとなり、やや悪くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・6月1日から、東京資本の大型ビジネスホテルがオープンする。当地の駅前周辺のホテルが飽和状態となる。パイが増えない中、突出するホテルはあっても、全体的には停滞する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・昨年5月にコンベンションセンターを設けたため、大会や学会の件数が増え、売上に貢献したが、2年目の今年は激減している。
		旅行代理店（従業員）	・給与収入が上がらないだけでなく、削減されている人もいる中、年金などの負担が増えており、先行き不安を感じる人が多く、旅行をするような人は減る。
		タクシー運転手	・とにかく客が少なく、また距離的に1メートルの客が増えている。そうした状況下、当地区では増車傾向にあるため、当地のタクシー乗務員は生計を立てることが難しい状況になってくる。
	悪くなる	スーパー（経営者）	・デフレはまだ進行しているが、総額表示に関連し、単価の上げ幅が大きいという印象を持っており、この影響は今年1年は続く。農産物の価格が暴落しており、これも消費が落ち込む理由になる。
		タクシー運転手	・客がいらないのに、増車の動きである。客がいらないから、交差点で客待ちをしたり二重駐車をしてしまう。そこに取り締まりが厳しくなるということで、良くなる素地は全く
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	農林水産業（従業員）	・今年の果実の生育は順調であり、特に桃の収穫時期は例年より早まりそうで、収入面で期待できる。
		木材木製品製造業（経営者）	・製品の販売単価の改善もみられ、収益改善も進むとみられる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・設備関係の引き合いが増加傾向にあるが、材料代の高騰が現実となり採算は悪化している。周辺の加工業者では、切削、板金含めてかなりの受注残を抱え、新規受注ができないほど忙しい。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・デジタルカメラ向けの需要がおう盛で、今後半年ほどはこの状況が続く。
		広告代理店（従業員）	・電力会社の料金改訂が夏ごろに予定されており、それに伴う印刷物の発注が見込める。
	変わらない	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・依然として印刷物は価格競争が激しく、目立った受注案件もないため、変わらない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・為替の動向を除けば、特段不安要素も少なく、当面は自動車部品も携帯電話用部品も現状の水準が維持できる。
		建設業（経営者）	・当初予算における公共投資の減少が、民間設備投資の増加分を相殺する状況が継続する。
		建設業（経営者）	・リフォーム等の小口工事の問い合わせ等が目立っているが、価格競争が厳しくなっており、この状況は当面続く。
	金融業（営業担当）	・景気上昇の期待感は広がっているが、現実には公共投資の削減を始め、不透明要素が多く、総じて横ばい状況が続	
	広告代理店（営業担当）	・当市の広告業界のけん引役である携帯電話業界の予算が、前年比でかなりシュリンクしている。	

		新聞販売店〔広告〕 (店主)	・当店のみならず他店でも、リストラされた人や日中の仕事だけで経済的に足りない人が配達のアルバイトを求めて来ている。また働き盛りの人が仕方なく家にいるという状況が散見され、全体的に消費に回す分が少ないと感じる。
		司法書士	・破産件数は昨年よりは少ない傾向にあるが、いまだ高水準で推移しており、過去の負債が整理できるまで時間を要する。
		コピーサービス業 (経営者)	・2～3か月先はあまり変わりはないと思うが、客の一部には上振れになっている業種もあり、将来的には多少なりとも日差しが見えてくる。
		その他非製造業〔飲 食料品卸売業〕(経 営者)	・酒類全体の消費額が増加する要因が見当たらない。一部の富裕層を除き、一般消費者の低価格志向の中から焼酎ブームが起きている。割って飲むという飲酒スタイルは、自由度があり、楽しいのだが、金額には結び付かない。他酒類の地道な販促が、実を結ぶかが明暗を分ける。
		その他企業〔企画 業〕(経営者)	・中小企業の定期昇給、ペアが決まったところで、その状況は経営者による期待含みのレベルであり、夏場までは支出を抑制気味にするという勤労者の意見が多く聞かれる。
	やや悪くなる	建設業(経営者)	・今期においてはいまだに受注がなく、手持ち工事を消化している。年度を通して前年比の半分程度まで落ち込む見通しである。
	悪くなる	食料品製造業(総務 担当)	・商品の荷動きもさることながら、重油の値上がりが続いており、製造原価を押し上げている。この状態がまだ続くとなれば、とても苦しくなる。
雇用 関連	良くなる	人材派遣会社(社 員)	・社員の補充を派遣で代替する動きや、繁忙に伴う派遣利用がまだまだ続く。
		人材派遣会社(社 員)	・当社が企画する、採用に関するセミナー参加者数が増えており、上向く。
	やや良くなる	人材派遣会社(社 員)	・派遣スタッフの残業時間が幅広く増えつつある。もう少しで増員にもつながらそうな勢いも一部で感じられる。
	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・5月に求人が一時的に減少した業種は偏りがあるため、これが全般的な傾向だとは考えられない。新たに進出する大型流通等があり、これに伴う募集も始まるので、多少は良くなっている。	
	職業安定所(職員)	・産業別に見ると、デジタル家電の製造、運輸、販売、サービスは上昇しているが、それ以外は業種によってばらついていく。	
	変わらない	人材派遣会社(社 員)	・派遣依頼は増えてきてはいるが、依然として登録者数が伸び悩みで、依頼されている仕事に対する決め込みが厳しくなっている。
		人材派遣会社(社 員)	・春先に一度採用をしてしまうと夏ごろは大体落ち着く。求人数も減るのが例年の傾向で、逆にこの期間に退職した求職者数を確保する必要がある。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人数は前年比でも増えているが、アルバイト・パートの増加が件数を押し上げている。アルバイト・パートの件数増を景気よし悪しの判断材料にすべきか、判断に迷う部分である。
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・電気機械等の製造業の一部に回復の動きが見られるが、引き続き、木材木製品や建設関連を中心に厳しい業種が多く、全体としては一進一退の動きとなる。
		職業安定所(職員)	・求人数は増えても、相変わらず有期的なものが多く、不安定な雇用になっている。
		職業安定所(職員)	・新規求人で、一般機械器具、電子部品等の一部業種で増加傾向がみられるものの、総じて減少している。求職者の実態については、企業整備離職者が大幅に減少した他、自己都合離職者、在職離職希望者等についても減少している。
		職業安定所(職員)	・求人内容として不安定雇用と思われるものも一定数あり、数の伸びはあるものの、ミスマッチの解消につながるような状況とは必ずしもなっていない。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-